

第40回放送番組審議会

議事録

平成24年2月9日

すまいるエフエム株式会社

番組審議会議事録

1 開催年月日 平成24年2月9日 木曜日 午後7時30分より

2 開催場所 志木市本町5丁目 デスティノードゥエ

3 委員の出席 委員の総数 7名

出席委員数 5名

出席委員の氏名 山谷 真名 委員長

狩野 悦夫

野口 敏明

村瀬 栄子

宮川さち子

放送事業者側出席者氏名

代表取締役 柏木 恭一

4 議題

- [報告事項] 1. その他
- [諮問事項] なし
- [審議事項] 1. 放送番組等について
2. その他
- [協議事項] 1. その他

5 議事の概要

放送事業者側から開会の挨拶の後、議題審議に入った。

6 審議内容

議長 では、普段の放送について意見ををお願いします。

委員 放送番組とはちょっとずれるが、東京都と帰宅訓練をやった。
埼玉に帰る人も参加と言うことは、都民でも区民でもない者に税金を使うということになるが、それを考えないと帰宅滞留者が出来てしまって、家に帰れないから、水や毛布などがその分必要になってしまう。この枠組みを作らなくてはいけないので、こういう（コミュニティ放送のような）メディアが必要になってくると思う。
「すぐは帰らないで下さい」などとアナウンスをしなくてはいけなくなる。
ネットではサーバーの負荷が考えられるが、放送ではそれが無い。
気になるのは、ビルの影響などでの不感地帯があることぐらい。

局員 その時にはケーブルテレビの同軸で補完できれば一番良いと思う。
電波だけだと、エリア内でも団地や住宅地で聴こえないところが非常に多い。
すまいるエフエムは、出力はコミュニティFMでは最小クラスだが、番組数で見ればトップ。
サイマル放送を始めて事務局に言われたのが、アクセス数が非常に多いということ。
編成的にはちゃんとやっていると思っている。（局自体の）パワーはあると思う。

委員 「持っている」局と、そうでない局を行政は知って欲しいと思う。
このエリアの行政は勿体ないと思う。
帰宅困難者の情報に関しては、地域的にすまいるエフエムはカバーできる局である。

委員 放送もそういう意味では「ライフライン」と考えて良いかもしれない。

委員 ケーブルテレビでも、電気がなければ意味がない。

その点、ラジオは手回し充電や電池でも聴ける。

すまいるエフエムは、そういう意味では「特異」な放送局だと思う。

局員 「ラジオ番組」を持っているだけでも、アーティストなどにとってはステータスになる。

ツイッターは誰でもできるので、逆に「誰が」喋ったのかが重要になって来ている。

行政もツイッターをやっているが、埋もれてしまっているような気がするので、

すまいるエフエムを活用して欲しい。

良かったと言う話しではないが、地域の地名が出てきただけで「安心できる」とリスナーから伺った。

「行政情報」では、もっと市役所の協力をして欲しい。担当者が喋ってくれても良いぐらいである。

委員 防災訓練を考えて、普段から市の担当者に喋ってもらうと言うのもどうだろうか。

委員 4市の議会で、震災の時や防災についてFMの存在をどう考えているか聴けると良い。

その他 今後の審議会について、日程を確認した。

7 審議機関の答申または改善に対してとった措置
特になし。

8 審議機関の答申または意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、
方法及び年月日

2月10日（金）社内にて報告した他、社内掲示を行った。

9 その他の参考事項 なし

社名	すまいるエフエム株式会社
----	--------------